

授業概要

グローバル化のなかで、文化との関係でひとの「こころ」とらえることの重要性が認識されている。異文化間心理学は、文化とひとの「こころ」に着目する心理学の分野であり、文化・社会・歴史的要因が人のこころの形成に与える影響を体系的に把握しようとする。ここでは、多くの具体的事例をあげることにより、文化・言語と認知との関係、異文化間コミュニケーション、文化とこころの発達との関係、文化・教育とひとのこころとの関係、さらに異文化間カウンセリングや異文化間トレーニングについて理解できるように講義をする。また、文化的背景の異なる人々がお互いに平和に生活するための糸口について考える。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業概要、講義の進め方、評価方法、注意事項など）
第2回	異文化間心理学・文化心理学・土着（固有文化）心理学
第3回	異文化間心理学・文化心理学・土着（固有文化）心理学の具体例1 中国人のこころ
第4回	異文化間心理学・文化心理学・土着（固有文化）心理学の具体例2 韓国人のこころ
第5回	文化・言語と認知
第6回	異文化間コミュニケーション1 異文化間コミュニケーションとは
第7回	異文化間コミュニケーション2 コミュニケーション・スタイルの国際比較（アジア）
第8回	異文化間コミュニケーション2 コミュニケーション・スタイルの国際比較（欧米）
第9回	文化と発達1 文化とこころの発達の理論
第10回	文化と発達2 文化とこころの発達の課題
第11回	文化と教育 -日米比較を中心に
第12回	異文化間カウンセリング
第13回	異文化間トレーニング
第14回	グローバル化と平和1 偏見と差別（イスラエル人とパレスチナ人の事例）
第15回	グローバル化と平和2 文化相対主義と自文化中心主義
第16回	期末試験

※授業の際に、異文化背景をもつ人を招いたり、学外研修をおこなう場合もある。

到達目標

- ・「異文化間心理学 I」を合わせて受講することによって、文化・社会・歴史がひとのこころの形成に及ぼす影響について把握し、異文化間心理学についての基礎知識を習得する。
- ・国際的視野にたって、文化・社会・歴史とひとのこころとの関係を理解できるようにする。

履修上の注意

- ・国際情勢、異なる文化、および異なる文化的背景をもつ人々について興味があることが望ましい。
- ・「異文化間心理学 I」を履修していることが望ましい。

予習・復習

- ・授業の最後に予習のための課題を出す場合がある。
- ・講義内容をより深く理解するために必ず復習をしてほしい。

評価方法

授業態度（10%）、授業中の提出物（20%）および試験（70%）。（詳細については、第1回のガイダンスで説明する。）

テキスト

必要に応じて資料等を配布する予定であるが、第1回のガイダンスで説明する。